

# 平成 27 年度 事業報告

## I 概況

平成 27 年度の我が国経済をみると、金融政策、財政政策により雇用・所得環境が改善し、石油価格の低下等により交易条件が改善する中で、緩やかな回復基調が続いた。政府は、新 3 本の矢として「希望を生み出す強い経済」、「夢をつむぐ子育て支援」、「安心につながる社会保障」の実現に向け、「一億総活躍社会の実現に向けて緊急に実施すべき対策」を取りまとめた。物価の動向をみると、原油価格等の下落の影響があるものの、消費者物価は対前年 0.8% 増となった。一方、株価は 3 月で 17,000 円台、為替レートも 1 ドル 110 円前後と年度当初の勢いはなくなった。

結果、平成 27 年度の実質 GDP は 1% 程度、名目 GDP は交易条件の改善もあって 2% 程度と見込まれる。マイナス金利というカンフル剤の効果も薄く、アベノミクスに失速感が漂ってきた。

中小企業者にとっては、収益性の悪化、設備投資の鈍化、取引条件も厳しさを増し、事業所数も減少が続いている中で、地方への支援、人材確保、ワークライフ・バランスの推進が叫ばれているが中小企業の成長を地域の経済活性化につなげることはできていない。

また東京では、“東京を世界一の都市にする”というスローガンの下、2020 年へ向けた「東京都長期ビジョン」により、東京の成長を謳う方針が打ち出された。東京都は税収も増え、活気も戻ってきている。中小企業への支援策も拡充してきている。

印刷産業は、「東京の工業」（平成 26 年 従業員 4 人以上）統計によれば、産業別に比較すれば、印刷産業は事業所数 2,236（構成比 18.4%）、従業員数 48,000 人（同 17.8%）と第 1 位、出荷額は 1 兆 5,400 億円（同 19.0%）と第 2 位に位置している。しかし、内実は事業所 167 社減、従業員 3,300 人減、出荷額 134 億円減と減少幅は、いずれも他の産業より大きく、その苦境ぶりは顕著となっている。

東京グラフィックスは、「強い東グラになろう！」をキャッチフレーズに、スローガンを『情報・教育・交流・顧客との共生と新たな挑戦』として事業を進めてきた。

具体的には、① 認定個人情報保護団体の活動（セミナーの開催、苦情受付）、プライバシーマーク制度の推奨、情報セキュリティ強化の啓発、改正個人情報保護法・マイナンバー制度の啓発、② 環境経営（環境保全・公害防止、資源リサイクル等）の推進、③ BCP 啓発活動、④ ワークライフ・バランス推進事業（女性の活躍推進、高齢者の活用、若者の積極的採用と定着）、⑤ 多彩なテーマのセミナー・研修会・印刷徹底講座の実施、東京都立中央・城北職業能力開発センターの向上訓練への参画、⑥ 都民のための印刷相談業務、⑦ 東京都の後援を得て「ビジネスアイデアコンテスト 2015」を実施、⑧ マーケティング強化に向けた新商材・新ビジネスの研究、⑨ キャリア形成促進助成金の「OJT 付き訓練」への協力、などの事業を推進したほか、青年部や会員企業有志による自主研究会も活発な活動を行った。

組織面では、12 社入会があったが 16 社退会で 316 社となり退潮傾向に歯止めはかからなかった。

財政面では、会費収入が減少したが、プライバシーマーク付与事業の収入が予算を上回り、支出の抑制と人件費の減額を図ったこともあり、黒字決算となった。

なお、ジャグラ創立 60 周年記念ジャグラ文化典東京大会および付帯行事を、各支部・青年部を中心とした実行委員会が企画・運営した。参加者は 460 人と、成功裏に開催できた。

業界を取り巻く環境は依然として厳しい状況だが、東京グラフィックスは、事業計画に掲げた計画は概ね遂行し、当期を終えることができた。

## Ⅱ 事業報告

### ① 認定個人情報保護団体の活動

個人情報保護法に基づく認定個人情報保護団体として、都民・消費者と会員企業間での個人情報に関する苦情・相談を受け付け、解決へ向けた活動を行った。窓口として担当理事、個人情報保護委員会および事務局が、経済産業省、(一財)日本情報経済社会推進協会と協議しながら解決にあたるが、今期は苦情受付1件で、当該企業と苦情申出者との間で解決に当たった。

なお、プライバシーマーク指定審査機関はジャグラへ移行しているが、プライバシーマーク制度の普及のために、当会会員への審査業務活動は継続した。取得会員企業は48社。

また、1月に「個人情報保護ガイドブック」(第4版)をジャグラと合同で発行した。

#### ■ 認定個人情報保護セミナー

- ・開催日：1月27日
- ・会場：ニッケイビル会議室
- ・参加：30人
- ・テーマ：「法改正をめぐる“個人情報保護”を考える」(講師：経済産業省・篠原治美氏、斎藤成専務理事)

### ② 環境保全・公害防止、資源リサイクル等の推進

公益委員会 CSR・環境グループは、ジャグラと合同で、事業を推進した。

環境保全・公害防止、資源リサイクルのため、グリーン購入法に基づく日印産連・オフセット印刷ガイドライン、PRTR法を含む各環境関連法令、東京都環境確保条例等の情報を、会員企業に紹介・周知し、遵守を促した。また、日印産連の環境優良工場表彰制度やグリーンプリンティング認証制度の普及と認証取得向上に向けて活動した。

### ③ BCP、地域防災計画の策定

BCP 特別対策グループは、ジャグラと合同で以下事業を推進した。

ジャグラ・東京グラフィックス機関誌上でBCP、BCMに関する普及・啓発活動をおこなった。年間で5回の委員会を開催し、CSR・BCP関連の事業を企画した。会員企業のBCP策定に係る実態調査の必要性から6月にアンケートを実施し、114社の回答を得た。この結果を分析し、策定済み企業、取り組み中の企業等を把握し、今後の方向性を加味した分析結果をジャグラ機関誌10月号に掲載した。さらに策定支援事業として、委員・事務局が取り組み中もしくは策定検討中の会員企業3社に対しフォロー、アドバイスを実施した。

ジャグラ東京大会に合わせ、大会運営におけるBCP対策を提言し非常に備えた。

10月9日(金)午後3時からスクワール麹町において、ジャグラ全国協議会の開催に合わせ「BCP講演会」を開催した。参加者80人。講師：江曾政英氏(第一資料印刷)。

10月15日(木)9時から、東京都が主催する「スーパーエコタウン見学会」に、女性の会レインボウと合同で参加した。場所：中央防波堤。参加者10人(内レインボウ5人)。

12月11日(金)に、東京ビッグサイトで開催した「エコプロダクツ2015」を委員会事業として見学した。参加者5人。見学会終了後、有明ワシントンホテルにおいて委員会を開催し、見学会の講評と意見交換をおこなった。

3月17日(木)午後6時からニッケイビルにおいて「BCP実践セミナー」を開催、BCP策定会員から事例の発表があった。参加者：20人。講師：林田桂一委員、NTT東日本。

委員から、BCPについて検定のような制度を作ってはどうか、との提案が出たが、委員会において時期尚早と判断した。

#### ④ 雇用の安定、就業への協力(ワークライフ・バランス＝女性・高齢者・若者、新しい採用方法の研究)

平成 26 年 10 月より、1 年半の期間で東京都課題解決型雇用環境整備事業の補助金事業として活動を進めてきた。テーマとしては、①女性の活躍推進、②高齢者の活用、③若者の採用・職場定着を中心に、延べ 3 回にわたる経営者・従業員向けアンケートの実施で意識と実態を調査、ワークライフ・バランス推進企業の見学会、3 回のセミナーの開催によって問題意識の共有を図ってきた。そして事業報告書ならびにパンフレットの作成、就業規則案の作成、就活生向けには若者に訴えかける内容のビデオを制作し、YouTube での放映。加えて就活生対象 page2015、IGAS2015 における見学と業界説明会の実施を都内の大学、短大、専門学校訪問によって呼びかけ、中小印刷業界への採用活動の支援を行った。そして、フレッシュマン向けに「印刷徹底講座」(座学と実技)の開催を通じ、職業人としての知識・技能の習得による定着化と事業実施してきた。

委員会では、“ワークライフ・バランスで企業力アップ”をスローガンに、女性・高齢者・若者の 3 つの部会を設置、これまで女性の活躍推進をテーマとした検討は行ってこなかったこともあり、手探り状態から女性社員の採用と職場開発、女性幹部の登用、出産・育児、パート労働についてについて対応策を検討。高齢者部会では、65 歳までの継続雇用義務化を前提に、年金との兼ね合いをはじめ、体力・気力の衰え、高齢者向け職場開発の不備、社内風土の醸成、シニアとしての心構え、さらに老々介護といった課題を検討した。総括は、3 月に報告書としてまとめ会員へ配布した。

#### ⑤ 教育・技術セミナー等の開催

##### ◎「印刷読本 part 2」の発行と「印刷徹底講座(座学編・実技編)」の開催

事業委員会技術グループでは、「印刷読本 part 2」(A 4 版・104 頁)を発行し、会員企業に配布した。同事業は東京都中小企業団体中央会の「平成 27 年度技術・技能継承事業」の助成金を活用して実施した。同本は 26 年度に発行した「印刷読本 part 1」で網羅できなかった、デザイン、特殊印刷、IT 分野に加え、印刷産業の労働安全衛生にも触れた。新入社員の教育テキストとして活用することを企図して編集された。技術グループでは計 10 回の委員会を開催し、委員・事務局自ら原稿を執筆したほか、専門家に執筆を依頼し、内容の充実を図った。

さらに 26 年度発行の「印刷読本 part 1」をテキストにした「印刷徹底講座(座学編・実技編)」(計 8 回)を、ワークライフ・バランス推進委員会(若者部会)が主管して開催した。

##### ◎セミナー事業

事業委員会教育グループは、会員企業および一般都民を対象に、さまざまなテーマでセミナーを企画・運営した。当期は 8 タイトル開催し、延べ 256 人が参加した。(会場はいずれもニッケイビル)

###### ■「動画配信で集客するノウハウ大公開!!」(講師:水越浩幸氏)

・日時:5 月 21 日      ・主催:三多摩支部      ・参加:25 人

###### ■「それが知りたかった!PDF の極意」(講師:影山史枝氏)

・日時:6 月 23 日      ・主催:教育グループ      ・参加:47 人

###### ■「発送までまるごと請けて利益アップ」(講師:松谷勝広氏)

・日時:7 月 2 日      ・主催:文京支部      ・参加:41 人

###### ■「コンパクト・デジカメだってイケてる商品撮影できます!」(講師:梅田玲氏)

・日時:7 月 29 日      ・主催:中央支部      ・参加:25 人

###### ■「マイナンバーの実務とオフィスのセキュリティ対策」(講師:松山純子氏、他)

・日時:8 月 25 日      ・主催:自主研会「社長講座」      ・参加:30 人

###### ■「『YouTube×印刷物』マーケティングの秘訣」(講師:鈴木健二氏)

・日時:10 月 7 日      ・主催:中央支部      ・参加:30 人

■「仕事を創って売上アップする方法教えます」（講師：山下潤一郎氏）

・日時：11月17日（火） ・主催：「チャレンジ1億円！プロジェクト」 ・参加：25人

■「知っておきたい特殊印刷・加工⑦ 製袋加工」（講師：前田知伸氏）

・日時：2月18日 ・主催：文京支部 ・参加：33人

◎ 技術講習会等の開催

事業委員会は、東京都立中央・城北職業能力開発センターと協働して、会員企業の従業者向けにブリプレス～印刷の技術習得・向上を目的とした講習会を開催した。

■「DTP・印刷実践講座」

・開催日：10月2日、10月5日、10月9日、10月16日、10月19日、10月23日

・会場：東京都立中央・城北職業能力開発センター ・参加：11人

・内容：PDF作成・処理実習、カラー印刷実習、他 ・講師：東京都講師他

■「カラー印刷基礎講座」

・開催日：1月8日、1月13日、1月15日、1月20日、1月22日、1月27日

・会場：東京都立中央・城北職業能力開発センター ・参加：7人

・内容：Photoshop、Illustrator、InDesign 実習とカラー印刷基礎 ・講師：東京都講師他

また、同センターと、当会・東京都印刷工業組合・東京グラフィックコミュニケーションズ工業組合の3団体の協働で、技術講習会（オーダーメイド講習）を開催したほか、同センターの各種キャリアアップ講習の周知・参加呼びかけを行った。

⑥ 都民のための印刷相談業務

総務委員会は、東京グラフィックスのホームページおよび機関誌「東京グラフィックス」により、都民への印刷技術の普及啓発および情報発信について広く公開した。

事務局にて、各種印刷や自費出版等に関連する相談業務にあたった。

また、各行政区レベルの産業展等（文京区「ぶんぱく」など）における“印刷”の普及啓発活動への協力・情報発信を行った。

⑦ 「ビジネスアイデアコンテスト 2015」の実施（所管：総務委員会）

総務委員会は、「ビジネスアイデアコンテスト 2015」（BIC）を企画・運営した。BICは小さなビジネスのアイデア（種）を募集し、「新しいビジネスは思いつきから始まる」というコンセプトのもと、ユニークさ、都民やその他に対しての有益性、新規性、既存のものであっても活用方法に工夫があること、採算性、実現性などを審査し、優れたアイデアを表彰するもの。ビジネスのアイデアは事業計画である必要はなく、思いつき・ひらめきを多く集めて、その中から“磨けば光る可能性のある原石”を見つけ出そうという趣旨。応募アイデアは印刷業界とは関連のないジャンルも対象にした。会員企業、一般都民、法人、都内在住学生を対象に、9月から作品募集を開始し（1月20日締切）、合計84点の応募があった。

募集期間中の11月25日（水）に応募促進の一環として「ビジネスアイデアセミナー」を開催した。テーマは「アイデア発想術」（講師：高橋晋平氏）。参加者40人。

BICの審査は外部有識者で構成する審査会が担当し、書類による一次審査・二次審査を経て、入選10点が選出された。2月24日（水）にニッケイビルにおいて、入選者によるプレゼンテーション大会が開催され（観覧25人）、同日に最終審査会を行った。プレゼン内容も勘案し、第1位「東京都知事賞」、第2位「東京都産業労働局長賞」、第3位「東京グラフィックス会長賞」以下、入賞5作品を選出した。審査結果は3月1日付でプレスリリースした。

## ■入賞作品

- ・第1位：東京都知事賞「外国語を話せなくてもおもてなし“Sumimasen”からはじまるおもてなしマップ」（西武写真印刷㈱・青木智美氏）
- ・第2位：東京都産業労働局長賞「“プロの技”を使いたおして。集客ばっちり」（㈱東美・高橋定男氏）
- ・第3位：東京グラフィックス会長賞「成長する名刺」（㈱ケイスイ・小林佳之氏）
- ・審査員特別賞「クラウド仏壇」（㈱研美社・西岡佐記氏）
- ・審査員特別賞「地域活性化 東京のまちおこしアイデア・4色カラー印刷でICタグを印刷しちゃえ！」（㈲プロテックス・落合信一氏）

## ■審査委員会

- ・審査委員長：日本プリンティングアカデミー学校長／猪股康之先生
- ・副審査委員長：アイデア・コークリエイター、㈱ウサギ代表取締役／高橋晋平先生
- ・審査委員：キヤノンプロダクションプリンティングシステムズ㈱／須加重之様
- ・審査委員：富士ゼロックス㈱／松井孝夫様
- ・審査委員：公益社団法人東京グラフィックサービス工業会会長／中村 耀会長
- ・オブザーバー：東京都産業労働局商工部経営支援課長及び課長代理

## ⑧ 経営・マーケティング強化事業

事業委員会マーケティンググループは、ジャグラと合同で、事業を推進した。

政府より観光立国を目指すアクションプログラムが出されたことから、観光ビジネスモデルのコンテンツを作成する方向で検討したが、成果を出すには至らなかった。

リコージャパン㈱から貸与された、全天球カメラ「THETA」による360°全天球画像+ARの印刷・グラフィックサービス業における活用方法について、情報収集・研究を行った。不動産紹介や飲食店の店舗風景紹介などの事例はあるが、さらに「印刷」との親和性のあるビジネスモデルの提案には至っていない。ニッケイビルの最寄駅（地下鉄日比谷線・小伝馬町駅）から会館までの経路と会館内の模様の360°全天球画像を、全国団体・ジャグラのホームページ・コンテンツとして作成した。

## ◎ 店頭掲示用「年賀状受注」「謹賀新年ポスター」の制作

総務委員会では、会員企業の店頭掲示用の「年賀状受注」「謹賀新年ポスター」を制作、配布した。

## ⑨ キャリア形成促進助成金の「OJT付き訓練」への協力

今期ジョブ・カード制度（実践型人材養成システム）に、会員企業2社から合計15人の新入社員が参加し新人教育を受講した。同新入社員は、4月6日（月）に日本プリンティングアカデミー（JPA）に入学した。同校で約1か月間、座学のOff-JTカリキュラムを受講し、Off-JT後は各社で戻り、9月末までOJTカリキュラムを受講した。

## ⑩ 組織の強化

総務委員会が中心となって、組織拡大のための入会勧誘活動を実施した。12社の新入会員を迎えたが、16社退会で316社（3月末時点）となり退潮傾向に歯止めはかからなかった。来期も引き続き、総務委員会と各地域が連携して入会勧誘活動を実施していく。

## ◎ 賛助会員懇談会

総務委員会は、東京グラフィックス賛助会員懇談会を11月19日（木）に日本教育会館「喜山倶楽部」において開催した。参加者は賛助会員・理事・委員65人。東京グラフィックスの事業・取り組み

を賛助会員に報告し、東京グラフィックスへの理解を深めてもらうことが目的。

#### ⑪ 広報活動

総務委員会は、東京グラフィックスのホームページおよび機関誌「東京グラフィックス」により、当会の活動紹介および情報提供を、一般都民に広く公開した。

また、IGAS2015、各行政区レベルの産業展等（文京区「ぶんぱく」など）において、当会の活動紹介および情報提供を、一般都民に広く公開した。

会員へは、ホームページ・機関誌・メールニュース・一斉ファクシミリなどで、当会活動をはじめ経営・技術面の情報提供を随時行った。

#### ⑫ ジャグラ文化典東京大会の開催

一般社団法人日本グラフィックサービス工業会（ジャグラ）の創立 60 周年記念ジャグラ文化典東京大会および付帯行事を、各支部・青年部を中心とした実行委員会が企画・運営した。会期は 6 月 11 日（木）～13 日（土）、メイン会場は港区白金台「八芳園」。460 人参加。

#### ⑬ 総会・新春賀詞交歓会

公益社団法人東京グラフィックサービス工業会の 2015 年度定時総会を 5 月 27 日、千代田区の「アルカディア市ヶ谷」において開催した。総会出席者は 58 人、委任状提出 135 人。

公益社団法人東京グラフィックサービス工業会の 2016 年新春賀詞交歓会を 1 月 15 日、文京区関口の「椿山荘」において開催した。参加者は 220 人。

#### ⑭ その他事業

##### ◎ 青年部「FACE」の活動

青年部ではジャグラ青年部 SPACE-21 や印刷産業青年連絡協議会（略称：印青連）等、他団体青年部との連携を強化し役員派遣に加え、事業の共催、情報共有を積極的に進めた。

FACEは毎月1回の定例会を軸に、5月9日（土）にスクワール麹町で開催された印青連総会の運営に協力、メンバーからも10人が出席した。5月14日（木）にFACE総会を開催、原田大輔会長以下、任期2年目に入り、事業の充実と深化を図った。6月13日（土）にジャグラ東京大会の日程に合わせ、SPACE-21 セミナー、FFGS、リコー見学会ならびに総会をリコーで開催した。運営は地元東京のFACEが担当した。参加者50人。11月7日（土）にSPACE-21 全国協議会大阪大会に参加し、これまでにないフィールドワーク中心のコンテンツで印刷需要の動向を探った。参加者100人。翌8日（日）にはFACE有志10名で、京都見学会を実施し、京都ならではの紙媒体商品に触れ、印刷物の具体的な活用法等を学んだ。11月18日（水）～20日（金）に東京ビッグサイトで開催された「中小企業産業交流展」に印青連としてブース出展し、FACEメンバーも連日ブース当番のほか、他の出展者、来場者と積極的な交流を図った。また同情報交換の成果は冊子にまとめ、加盟メンバー各社の営業ツールとして活用されている。1月16日（土）に山梨クラウンパレスホテルで開催された、SPACE-21 関東座談会にメンバー2人が参加した。2月6日（土）には、隔年で開催されているPRINT NEXT2016に参加した。参加者533人。PRINT NEXTの準備では、FACEから実行委員長、企画部会長を派遣したほか、SPACE-21からも各地域担当委員、役員を派遣し他団体と共同で運営した。

##### ◎ 「女性の会レインボウ」の活動

レインボウの活動は、独自事業に加え、東京グラフィックス本部、青年部FACEなどと連携し、事業を推進した。また本部のワークライフ・バランス推進委員に委員を派遣したほか、同委員会事業の

女性活躍推進分野において、企業事例紹介等に取材協力をした。

3月14日（金）に学士会館において平成27年度定期総会を開催し、事業計画・予算案を承認した。参加者10人。5月16日（土）にお台場海浜公園にて、「環境美化ボランティア」を実施し、砂浜の清掃活動をおこなった。参加者8人。6月13日（土）にジャグラ東京大会の日程に合わせ、SPACE-21 セミナー、FFGS、リコー見学会ならびに総会をリコーで開催した際、レインボウとして運営に協力した。7月13日（月）に株式会社会議録研究所・埼玉営業所の見学会を実施し、リアルタイム反訳などの実務を学んだ。参加者10人。9月7日（月）に美文字勉強会を会議録研究所会議室で開催した。参加者10人。10月15日（木）9時から、東京都が主催する「スーパーエコタウン見学会」に、CSR・BCP 特別グループと合同で参加した。場所：中央防波堤。参加者10人（内レインボウ5人）。11月9日（月）、美文字勉強会を会議録研究所会議室で開催した。参加者10人。12月18日（金）忘年会を神楽坂アンジェラで開催した。参加者10人。平成28年2月22日（月）に銀座権八で新年会を開催した。参加者5人。

### ◎ 自主研究会「社長講座」の活動

東京グラフィックス自主研究会「社長講座」は会員有志の自主的な勉強会として、経営問題だけでなく、文化・芸術など多彩なテーマでセミナー・研修会を開催し、セミナーは会員や一般都民にも開放している。なお、今年度は創立10周年に当たり、10月31日に千葉県鴨川にて懇親旅行（参加10人）を開催した。

#### ■ 「マイナンバーの実務とオフィスのセキュリティ対策」（講師：松山純子氏、他）

・日時：8月25日      ・参加：30人      （※教育グループと共催）

#### ■ 芸術セミナー「スペイン絵画、栄光の系譜」（講師：佐藤よりこ氏）

・開催日：10月16日      ・会 場：ニッケイビル会議室      ・参 加：10人

#### ■ 「仕事を創って売上アップする方法教えます」（講師：山下潤一郎氏）

・日時：11月17日（火）      ・参加：25人

（※「チャレンジ1億円！プロジェクト」主催として、教育グループと共催）

#### ■ 「チャレンジ1億円！プロジェクト」

「印刷・グラフィックサービス業は本当に尻すぼみなのか？」との視点から“パラダイムシフト”を乗り越えるための方策を研究し、2～3 年計画で自社（企業規模関係なく小規模・零細でも）の「売上1億円アップ」を目標に研究・実践を行っている。また、売上アップの取り組みを通じて、参加企業が再び自信を持てるようにすることを目的に、月1回の勉強会（第2期月5～10月、第3期12月～5月）を開催した。講師は山下潤一郎氏（Brighter Later）が務め、講師のレクチャー、参加者のディスカッション、課題（宿題）の作成と発表を中心に、ゼミ形式で研究を進めた。プロジェクト参加は、社長講座メンバーを中心に8社。

### ◎ 「市場開拓自主研究会」の活動

ほぼ月1回、計10回の会合を開催した。賛助会員（富士ゼロックス東京㈱等）と協力し商材開発、販路開拓を主とした研究テーマに掲げて活動した。

AR事業の展開として、江戸の古地図と現在の東京の地下鉄路線図を重ね合わせたものにARを連動させた地図（素材は不織布）を開発し、ジャグラ文化典東京大会で参加者に配布した。

このほか、ドローンの研究、360°カメラの活用、ウェアラブル端末向けアプリの開発を進めた。特にメガネ型のウェアラブル端末をアプリ開発用に購入し、印刷媒体にとらわれないビジネス展開を目指したアプリの研究と開発に力を入れた。引き続き試作、検証を重ね、実用化を目指している。

以上